



2019年3月4日

## Audi R8 V10 Decennium : V10 エンジン 10 周年記念 限定モデル

- 世界 222 台限定のリミテッドエディション
- エクスクルーシブなデザインを採用した Coupé
- 新型 Audi R8 と同時に発売

2019年2月28日、ネットカーズルム：456kW（620hp）を発生するV10エンジン、インテリア及びエクステリアに配されたブロンズのアクセントカラー、そして限定生産。アウディは、V10エンジンの10周年を記念して、Audi R8 V10 Decennium（Audi R8 V10 ディセニウム）を発表します。この世界222台限定のリミテッドエディションは、新型 Audi R8 と同時に発売されます。Decennium という名称はラテン語に由来し、“10年”を意味しています。このモデルは、10年にわたって人々を魅了してきたV10エンジンを記念するもので、モータースポーツにおける栄光の歴史を表しています。

Audi R8 V10 Decennium は、エクステリアを見るだけで、そのクルマが類まれなモデルであることが分かります。Coupé に設定されたこの特別なモデルは、専用カラーのデイトナグレイ マットエフェクトを採用。20インチホイールと5.2FSIエンジンのインテークマニホールドは、マットブロンズ仕上げとなっています。フロントスポイラー、サイドシル、ディフューザーはグロスブラックで塗装され、エクステリアにはブラックのアウディリングとロゴが装着されています。サイドブレードとドアミラーハウジングは、グロスカーボンファイバー製です。専用カラーであるデイトナグレイ マットエフェクトの他に、デイトナグレイ パールエフェクト、スズカグレイ メタリック、フローレットシルバー メタリック、ミトスブラック メタリック、アスカリブルー メタリック、ケモーラグレイ メタリックを選択することも可能です。

Audi R8 V10 Decennium のインテリアも、完全にブラックを基調として仕上げられ、グロスカーボンファイバー製のインレイがハイライトとなっています。スポーツシートにキルティングされたランバス（ひし形）パターンのステッチは、グロスブラックで仕上げられ、コントラストステッチにはグロスコッパートーンが採用されています。セレクターレバーとステアリングホイール（アルカンターラ巻き、12時の位置にマーキングを設置）には、センターアームレスト、ドアアームレスト、ドアレールと同様に、コッパーカラーのステッチが施されています。

“Decennium” ロゴは、センターコンソール、ドア、グロスカーボンファイバー製ドアシルトリムのインレイに装着され、ロゴプロジェクターにも採用されています。グロスカーボンファイバー仕上げが施されたセンターコンソールにも“Decennium” ロゴ装着され、インテリアのアクセントとなっています。このロゴは、アウディが特許を取得した部分マット仕上げを特徴としています。素材の表面は、特殊な粉末を使用して、数千分の1ミリ単位で粗面化処理が施されています。ドアに設置されたプロジェクターライトは、“Decennium” のロゴに加え、各モデル専用のシリアル番号を地面に投影します。他のすべてのR8モデルと同様に、アウディバーチャルコックピットとMMIナビゲーションプラスが標準装備されません。

Audi R8 V10 Decennium には、5.2FSI自然吸気エンジンの最もパワフルなエンジンが搭載されます。このエンジンの最高出力は456kW（620hp）、最大トルクは580Nm、0～100km/h加速は3.1秒、最高速度は331km/hです。Audi R8 V10 Decennium は2019年春から発売され、価格は22万2,000

ユーロです（ブロンズカラーの“Decennium”刺繍が施された専用ボディカバーが付属）。

このリミテッドエディションは、新型 Audi R8 と同時に発売されます。高性能スポーツカーの Audi R8 は、よりシャープなエクステリアデザインを採用し、サスペンションとパフォーマンスがさらに引き上げられています。市販モデル用の 2 種類の自然吸気エンジンは、419kW (570hp) および 456kW (620hp) を発生します。インテリアは、豊富なオプションによってカスタマイズすることが可能です。Audi R8 Coupé V10 quattro の価格は、16 万 6,000 ユーロです。Audi R8 Spyder V10 quattro のベース価格は、17 万 9,000 ユーロです。高性能なパフォーマンスバージョンの価格は、Coupé が 20 万ユーロ、Spyder が 21 万 3,000 ユーロです。

※このモデルの日本市場への導入時期、台数、諸元につきましては未定です。

### 10年に及ぶ成功の歴史：Audi R8 の V10 エンジン

自然吸気 V10 エンジンは、2009 年初頭に登場した Audi R8 に搭載され、2 種類のバージョンが設定されていました。直噴システムを備えたこのエンジンの排気量は 5.2 リッター、最高出力は 386kW (525hp) でした。



第 1 世代（2008/2009 年）：Audi R8 5.2 FSI quattro

2010 年に発売された Audi R8 GT エディションモデルにおいて、この 10 気筒エンジンは 412kW (560hp) を発生し、R8 V10 plus (2012 年以降) では 404kW (550hp) を発生していました。

2015 年に登場した第 2 世代の R8 において、この FSI エンジンは徹底的な見直しを受けました。ここでは、インテークマニホールドに燃料噴射システムを追加することにより排出ガス特性を改善し、シリンダーオンデマンド (COD) システムが部分負荷状態で片バンクの 5 気筒を休止させることで燃費も向上しました。5.2 FSI エンジンのポテンシャルも引き上げられ、さらにダイレクトに反応し、レスポンスも鋭くなりました。販売開始時には、397kW (540hp) および 449kW (610hp) のバージョンを選択することができました。最新のアップグレードでは、さらに出力が 419kW (570hp) および 456kW (620hp)



第2世代 (2015年) : Audi R8 V10 plus

モータースポーツのテクノロジーを反映したこのV10ユニットの大きな特徴は、最大8,700rpmまで回る高回転型エンジンであること、そして搭載位置を低くすることができるドライサンプ潤滑システムを採用していることです。V10エンジンのバンク角は90度です。クランクシャフトは左右のバンクで共通のクランクピンを使用し、点火タイミングは54度と90度の不等間隔となっています。1-6-5-10-2-7-3-8-4-9の点火順序により、独特なパルス感と、このエンジンならではのサウンドが生み出されています。最高回転数の8,700rpmでは、ピストン速度は平均26.9m/sにも達します。これは、最新のF1マシンのエンジンを凌ぐ数値です。この速度では、ピストンは反転ポイントで約2トンの荷重に相当する加速度を受けます。



Audi R8の心臓部：自然吸気V10エンジン

このハイパフォーマンスエンジンは、サーキットでも大きな成功を収め、2009年にはAudi R8 LMSがGT3クラスにデビューしました。2012年にはR8 LMS ultraが、2015年には第2世代のR8 LMSが登場しました。第2世代のR8 LMSは、2018年の秋にアップグレードが施されています。2018年初頭には、Audi SportのカスタマースポーツプログラムにR8 LMS GT4が投入されました。両方のGTカテゴリーにおいて、市販バージョンに搭載されている5.2 FSIエンジンとの違いは極めて小さく、デュアルインジェクションシステムが廃止されたこと、インテーク経路にエアリストリクターが設置されたこと、制御ユニットのマッピングが変更されたこと、そしてベアリングシェルが改良されていることです。5.2 FSIエンジンのサービス間隔は1万 km、初回のオーバーホールまでの間隔は2万 km に設定され、モータースポーツの世界において新たな基準を打ち立てました。多くのチームはより短いサービス間隔を強いられているため、この長い整備間隔はチームに利点をもたらします。

2018年末までに、Audi R8 LMS GT3は総合ドライバーランキングで62回の勝利を挙げ、クラスランキングではさらに78回のタイトルを獲得しています。24時間レースでは、11回の総合優勝を成し遂げました。さらにこのGT3スポーツカーは、最近10年間で、12時間レースで7回の勝利、25時間レースでは3回の勝利を収めています。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。